

緑肥の可能性を知る

神戸市で有機稲作研修会

NPO法人命根いのねの稲いね（久
敬二理事長）は7月29日、



神戸市北区の上大沢ふれあ
い会館で「有機稲作研修会」
を開き、有機農業実践者や

新規就農者ら約50人が参加
した。

同法人は、消費者を中心
に構成され、環境と健康に

ヘアリーベッチを利用した
「細断被覆不耕起田植え」に
ついて説明する米倉所長

配慮した農業と地域活性化
を目的として活動してお
り、但馬地域で取り組み
ている「コウノトリ育む農
法」を県南地域で実践する
ため、4年前から同研修会
を開催している。

研修会では、県総合農政
課環境農業参事の西村いつ
き氏が、県内での緑肥の利
用状況や環境保全型農業直
接支払制度について説明し
た。続いて、有機稲作研究
所の米倉賢一所長が緑肥の
利用が地球温暖化防止につ

ながること、緑肥作物ヘア
リーベッチの導入で水稻・
大豆の品質・収量の改善に
つながることなどを説明し
た。また、雪印種苗株の和
田美由紀研究員が、利用方
法に応じた緑肥作物の選択
方法について紹介した。

最後に、NPO法人兵庫
県有機農業研究会（HOA
S）の牛尾武博理事長が、
「近年、生態系の危機を感
じている。改めて、緑肥の
可能性について知ることが
できた」とあいさつした。